

福島国際研究教育機構の施設基本計画 <概要>

令和6年1月30日 復興大臣決定

はじめに

「福島国際研究教育機構基本構想」（令和4年3月29日復興推進会議決定）において、F-REIが着実に業務を本格実施できるよう、当初の施設整備は国が行い、令和5年度までに設計条件を盛り込んだ施設基本計画を取りまとめることとされている。

本計画は、復興庁に設置した「福島国際研究教育機構施設の在り方に関するアドバイザー会議」で取りまとめた「福島国際研究教育機構の施設基本計画策定に向けて」を踏まえたものである。

施設整備の方向性

多様な研究開発活動に応じた施設づくり

- ・「創造的復興の中核拠点」にふさわしいシンボル性を持った環境の創出
- ・イノベーションを起こす研究開発の実施に資する空間の創出
- ・分野横断的な融合等を促進する交流・連携空間の創出
- ・若手や女性、外国人などの多様な研究者の活躍を支える環境整備等

周辺環境や景観に配慮した施設づくり

- ・土木と建築、ランドスケープの一体的な検討
- ・浪江駅周辺のまちづくりとのつながりを考慮等

研究者や地域の方々に親しみやすい施設づくり

- ・F-REI研究者や地域住民等来訪者の交流空間の創出等

安全で快適な施設づくり

- ・耐震性能の確保や浸水対策の実施
- ・施設内外において適切なセキュリティレベルを設定等

地球環境にやさしい施設づくり

- ・再生可能エネルギーや水素等グリーンエネルギー活用の検討
- ・ZEB化や木材利用の検討等

段階的供用及びサステナブルな施設づくり

- ・研究活動等の早期の本格化を目指し、各施設を順次段階的に供用開始
- ・将来的な施設の拡張性や更新のしやすさ等を考慮した配置計画等

研究開発等環境の充実に資する施設整備に向けた重点方針

研究開発等環境（総論）

分野横断的・学際的な研究の促進／共同研究等を促進するための産学連携交流スペースの配置等

交流・連携

天候や気候に影響を受けずに自由に入出入りができるオープンスペースの整備／ホール、大会議室、広報・展示室等の整備等

防災・減災

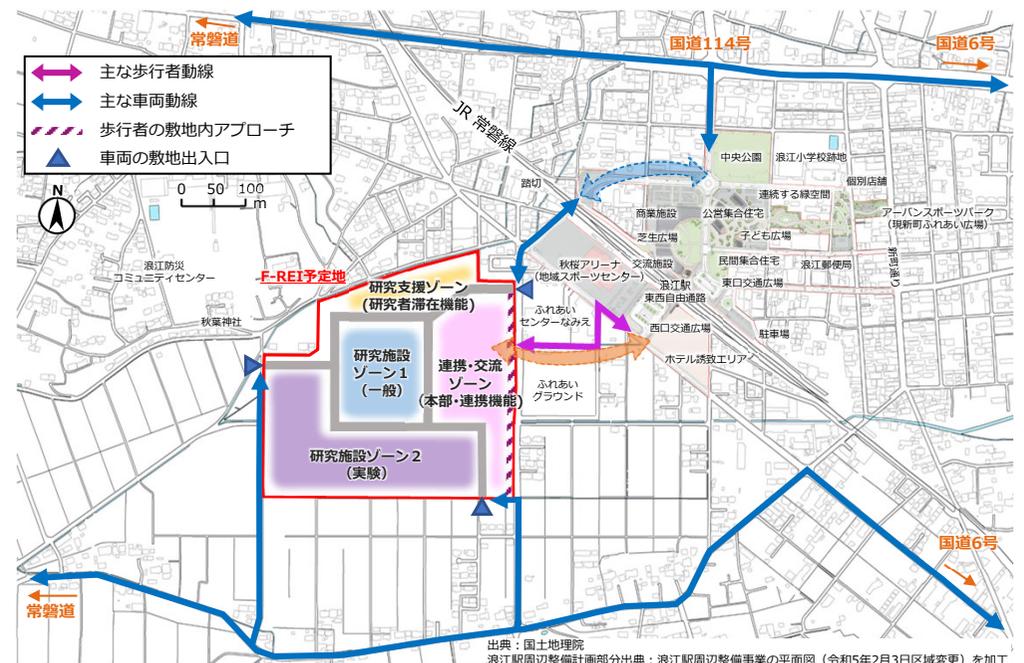
耐震・浸水対策（盛土等）／研究の継続性／地域防災の向上への貢献等

環境・サステナビリティ

エネルギー管理システムの構築／緑地空間の創出／省エネルギー化や耐久性の確保等

ゾーニング図／動線図

本敷地の都市計画事業における都市施設（研究施設）の面積は約16.9万㎡。



※現時点での想定であり、今後の詳細検討等に伴い変更する可能性がある。

| ゾーン名 | 主な施設 | |
|----------|----------|--|
| 連携・交流ゾーン | 本部施設 | 管理・運営を担うための施設 |
| | 本部機能支援施設 | F-REI関係者の研究活動・職務を支援するとともに、F-REIの活動や研究成果を広報・展示するための施設 |
| | 図書・情報施設 | 研究者等が文献調査を行うほか、研究データの保管等のためのサーバーを設置するための施設 |
| | 講堂・ホール施設 | 研究成果の発表や人材育成のための講義、見学者等の来訪者への情報発信等を行うための施設 |
| 研究支援ゾーン | 短期宿泊施設 | 連携大学院制度による大学院生や共同研究等のためのポストドクター等が一時的に滞在するための施設 |
| 研究施設ゾーン1 | 研究実験施設 | F-REI研究者や共同研究者等が日常的に滞在し、研究活動を行うための施設 |
| 研究施設ゾーン2 | 固有実験施設 | F-REI研究者や共同研究者等が高度な研究活動を行うための施設 |
| - | その他 | 中央監視施設や廃棄物処理施設、受変電施設等を想定 |

工期

・復興庁設置期間内での順次供用開始を目指し、さらに可能な限り前倒しに努める。